

1 単元名 中世の日本 ～武士の台頭と鎌倉幕府～

2 単元の目標

- 中世の歴史的事象に対する関心を高め、意欲的に追求し、中世の文化遺産を尊重しようとしている。  
(社会的事象への関心・意欲・態度) ①
- 中世の歴史的事象から課題を見だし、中世の特色などを多面的・多角的に考察し、公正に判断して、その過程や結果を適切に表現することができる。  
(社会的な思考・判断・表現) ②
- 年表や歴史地図、映像などの中世に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり、図表などにまとめたりすることができる。  
(資料活用の技能) ③
- 中世の特色などを世界の歴史を背景に理解し、その知識を身に付けることができる。(社会的事象についての知識・理解) ④

3 単元の学習について

(1) 教材観

本単元は、中学校学習指導要領解説社会科編中項目(2)「中世の日本」に基づいており、我が国の中世の特色を、世界の動きとの関連を踏まえて課題を追求したり解決したりする活動を通して学習することをねらいとしている。このねらいを達成するために、中項目(2)では、武士が台頭し、武家政権が成立したことによる支配の拡大という武家政治の成立の背景や、天皇と貴族の政治との違いから古代から中世への転換の様子について諸資料を読み取り、気付けるようにすることが重要である。

(2) 生徒の実態 (令和2年1月14日実施, 調査人数\*人)

本学級の生徒に、「中世の日本～武士の台頭と鎌倉幕府」の学習に関して知識・理解及び資料活用の技能の実態調査を行った。鎌倉時代で主体となった支配者の身分を選択する問題では、武士を選択した生徒が\*人で、貴族を選択した生徒が\*人であった。また、資料から貴族と武士の生活の違い読み取り、記述する問では、貴族の生活を「華やか」と答えた生徒が\*人と最も多く、「牛に乗っている」、「大きい家に住んでいる」が続いた。一方で、武士は「貧しい」と\*人の生徒が答え、「馬に乗っている」、「弓などの練習をしている」が続いた。この問では、貴族の生活において、「まりなどで遊んでいる」というような自由な生活を送っているという読み取りがなかったため、資料を注意深く読み取り、自分の考えを表現することに課題が見られた。さらに、鎌倉幕府が開かれた場所を日本地図から選択する問では\*人が正しく鎌倉の位置を選択できた。一方で、\*人が京都や奈良などの近畿地方を選んでいたので、地理的な事象との関連に課題が見られた。

(3) 指導について

本単元では、貴族を中心とした社会から武士を中心とした社会への偏移及び、武士の台頭による支配の全国化と東アジアの変化によって、政治や社会、文化に影響を与えたことを捉えさせたい。まず、貴族の生活と武士の生活様態の相違点から、これからの社会の様子について予測させることを単元の導入とする。それとともに、武士による政権がなぜ、誕生したのか資料を基に考える場を設定する。また、この頃の民衆と武士との関わりや、武士による政権が社会の変化をどのように築いていったのか資料を基に気付かせるようにする。毎時間の学習において課題解決に必要な歴史的資料を提示し、資料の着目点を学習課題から考えるなど着目の視点について伝える。そして、諸資料から必要な情報を取捨選択し、課題解決のための根拠を明確にして表現するなど社会的な見方・考え方を働かせる場を設定する。また、調べた内容や考えた内容について、グループ内で意見交換を行い、自己の考えを振り返ることで更なる気付きや多面的な見方の育成に努める。また、話し合う視点を明確にすることでより主体的に学び合い、深め合う生徒の育成につなげていく。このような手立てを用いて、中世の日本の歴史的事象の特徴を捉えさせ、古代から中世の転換に気付かせるようにする。

4 指導と評価の計画(6時間扱い)

- 第1次 武士の成長について考えよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2時間
- 第2次 鎌倉幕府の成立について考えよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3時間

時	学習内容・活動	評価の規準・方法	関	思	技	知
1 (本時)	なぜ、御家人は朝廷ではなく幕府を味方にしたのか考える。  単元を貫く学習課題：武士による社会は日本をどのように変えていったのだろうか。	承久の乱の際に、御家人が幕府側を味方した理由について諸資料を基に考えている。(ノート, 発表)		○		
2	鎌倉時代の武士と民衆の生活の違いについて考える。	武士や民衆の生活を表した資料から、それぞれの身分をもつ人々がどのような生活を送っていたのかを考えている。(ノート, 発表)			○	
3	鎌倉時代の文化や仏教がどのような特色をもっていたのか考える。	文化や仏教が誕生した背景には何があるか、世の中の様子から考えている。(ノート)		○		

- 第3次 武士による社会の変化について考えよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間

5 本時の指導

- (1) 目標 承久の乱で御家人が朝廷ではなく幕府を味方した理由について、御恩と奉公の関係に触れつつ、教科書や資料集を基に、その理由や根拠を自分の言葉で表現することができる。②
- (2) 準備・資料  
資料集、ノートパソコン、プロジェクタ、プロジェクタスクリーン、ヒントカード
- (3) 展開

◎目指す生徒像に迫るための手立て 評価の観点

時間	学習内容・活動	学習形態	指導上の留意点・評価
つかむ 12	<p>1 前時の復習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・武士の成長と源平の争乱について確認する。</li> </ul> <p>2 鎌倉幕府についての理解を深める。</p> <p>(1) 幕府が鎌倉に開かれた理由を考える。</p> <p><b>予想される生徒の考え</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周りが海なので敵から攻められにくいから。</li> <li>・朝廷からの距離が離れているため安全だから。</li> </ul> <p>(2) 承久の乱について理解を深め、御家人が朝廷と幕府のどちらを味方して戦ったか考える。</p> <p>(3) 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>なぜ、御家人たちは朝廷ではなく幕府に従い、朝廷と戦ったのだろうか。</p>	<p>CW</p> <p>PA</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天皇と貴族を中心とした社会から武士を中心とした社会への転換を思い出せるようにする。</li> <li>・日本地図を用いて鎌倉の位置を確認することで、地理的な知識・理解の定着を図る。</li> <li>・考えが出ない際にはペアで考察する時間を設定し、確認し合うことで思考が整理できるようにする。</li> <li>・小学校での既習事項を確認することで学習内容の系統性をもつことができるようにする。</li> <li>・承久の乱の起こった経緯について伝えることで、これからの学習がスムーズにできるようにする。</li> </ul>
考える 15	<p>3 御家人が幕府側に従い朝廷と争った理由について諸資料を基に考える。</p> <p>(1) 戦った理由について予想をする。</p> <p><b>予想される生徒の考え</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幕府の人が良い人だったから。</li> <li>・朝廷と仲が悪かったから。</li> </ul> <p>(2) 前時までの授業内容から考える。</p> <p>(3) 北条政子の訴え『吾妻鏡』から考える。</p> <p>○資料の例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝廷への不満について</li> <li>・御恩と奉公について</li> <li>・吾妻鏡について</li> </ul>	<p>PW</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えがどのような根拠に基づいているものか資料等から抽出するように助言し、多面的・多角的な思考を促すようにする。</li> <li>・御恩と奉公などの歴史的事象の用語を用いて根拠を明確にするように促す。</li> </ul> <p>◎承久の乱にて御家人が朝廷ではなく幕府を味方した理由について、御恩と奉公の関係に触れつつ、教科書や資料集を基に、その理由や根拠を自分の言葉で表現している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・机間指導の際に、資料活用につまずいている生徒に対し、読み取り方のヒントを提示する。</li> <li>・資料集等で語句の意味を確認するよう促すことで課題を解決しやすくする。</li> </ul>
深める 13	<p>4 考えた内容を基にグループで考えをまとめる。</p> <p>(1) グループ内で考えを100字程度にまとめる。</p> <p>(2) グループでまとめたことを、共有する。</p>	<p>GW</p> <p>CW</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎課題に対して問をたて、その問の答えを、資料等を活用し説得力をもたせて表現できるようにする。</li> <li>・グループ活動時には司会進行役を決め、意見交換をスムーズに行えるようにする。</li> <li>◎グループでの意見交換により、他者との考えを比較し、共通点や相違点を確認し、自分の考え方を振り返ることで、深い学びになるようにする。</li> <li>・全体発表の際には、代表の班が発表を行い、付記内容を残りの班が発表できるようにする。</li> </ul>
まとめる 10	<p>5 本時のまとめと、振り返りをする。</p> <p>御恩と奉公という主従関係が幕府と御家人の間で強く結びつけられていたことや、今までの朝廷への不満があったからである。</p> <p>6 次時の学習の確認をする。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時は武士と民衆の生活の様子について学習することを伝える。</li> </ul>

PW：パーソナルワーク、PA：ペアワーク、GW：グループワーク、CW：クラスワーク